貝殻利用研究会「生物多様性アクション大賞 2016」入賞

平成 28 年 11 月、国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J)主催の「生物多様性アクシ ョン大賞 2016」で貝殻利用研究会が入賞しました。副賞として、生物多様性のスペシャリ スト集団である IUCN-J(国際自然保護連合日本委員会)による「にじゅうまる診断書」を いただきました。



にじゅうまる診断書

2016年11月1日

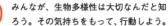
貝殻を活用した里海保全活動 ~貝殻が海を救う!~

について



みなさまの活動は、人と自然の共生を目指した「愛知ターゲット」の 以下の項目に多大な貢献をされています。







陸地の17%、海の10%は、 なにがあっても守る場所に決めよう。





生物多様性を大切にする計画を立てよう。



絶滅危惧種を絶滅から防ぎ、 ふつうの種に戻していこう。

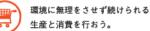


生物多様性に悪い制度はやめよう。 やめさせよう。いい制度をすすめよう。



一つの種のなかでも、 多様さを大事にしよう。







生態系を守り、自然の恵みが子どもや貧 しい人々にも届くようにしよう。





森など、生き物が暮らす場所が失われるス ビードを半分まで抑えよう。ゼロを目指そう。





傷ついた生態系を、15%以上回復させ よう。それによって気候変動や、砂漠化 の問題に貢献しよう。

06



魚や貝など水産資源は、これからも無理 なく続けられるように漁獲しよう。

16



生物多様性から得られる利益は、 国や地域を超えて公正に分配しよう。

07



農業・養殖業・林業が行われる地域を、 長く無理なく活動できるよう管理しよう。

17



みんなで参加しながら作戦を立て、 みんなで実現しよう。

80



化学物質・肥料・農薬は、生物多様性に 有害でない範囲まで抑えよう。

18



生き物や自然にまつわる 伝統的な知識を大切にしよう。



環境に害をあたえる外来種が増えるのを 防ごう。入ってこないようにしよう。

19



生物多様性に役立つ知識や技術を 豊かにしていこう。

10



サンゴ礁など、 環境の変化に特に弱い生態系を守ろう。

20



活動を支えるために大切な人材と資金を、 協力を集め増やしていこう。

養殖等で発生した廃棄貝殻を活用するなど、海の恵みの循環利用の発想をもつ技術とし て、愛知目標 19「知識・技術の向上と普及」に貢献しています。森・里・川・海という言葉通り、 海は森・里・川からの影響を受けますので、上流や流域保全の取り組みと連携すること(愛 知ターゲット 17「効果的・参加型戦略」で、更に高い活動成果が生み出せると思います。



生物多様性アクション大賞とは...

生物多様性の保全活動に取り組む団体を表彰するものです。「たべよう部門」「ふれよう部門」「つたえよう部門」「まもろう部門」「えらぼう部門」の5部門があり、貝殻利用研究会は、「まもろう部門」(森・里・川・海などで自然や生き物の調査・保全・再生などを行っている活動)へ応募し、貝殻を活用した里海保全活動の取り組みが評価されました。



貝殻魚礁の基となる貝殻基質 を製作する漁業者



貝殻のすき間で増える多様な生物を 調査する環境学習

にじゅうまるプロジェクトとは...

「生物多様性を守るためにどのような貢献をしているか」を見える化する取り組みです。 2010年に愛知で開催された国際会議で考え抜かれた世界目標「愛知ターゲット」20項目からできています。

貝殻利用研究会の取り組みは、5項目の取り組みに貢献していると評価されました。





みんなが、生物多様性は大切なんだと知 ろう。その気持ちをもって、行動しよう。





生態系を守り、自然の恵みが子どもや貧 しい人々にも届くようにしよう。

04



環境に無理をさせず続けられる 生産と消費を行おう。

19



生物多様性に役立つ知識や技術を 豊かにしていこう。

07



農業・養殖業・林業が行われる地域を、 長く無理なく活動できるよう管理しよう。

貝殻利用研究会は、にじゅうまるプロジェクト活動団体として登録されました。(H28.12)